

まほうのじゅもん

小一・中村 成琴

(ひっくり)

「やった。いつも(ひっくり)の、しゃっくり(ひっくり)だ。」

わたしのなまえは、リース。しょうがく一ねんせい。がっこうのかえりみち、しゃっくりがでた。ともだちとわかれて、ひとりしずかだったから、うれしかった。なんでって。しゃっくりは、じぶんでじゆうにできないから。とつぜんでて、しらないあいだに、とまるでしょ。だから、であえると、うれしいの。おもいランドセルを、せおっていても、しゃっくりすると、わたしも、ランドセルも、すこしうかんで、たのしい。へんなおともすき。くちをとじても、とまらない。

「ただ(ひっくり)いま。マミー。しゃっ(ひっくり)くり、でるよ。」

「おかえり。よかったね。」

わたしは、マミーとハグして、みずをのんだ。くちのなかに、みずがはいつていても、しゃっくりは、とまらない。のどに、つまりそうになった。こころのなかで、「セーフ。」と、いって、わらった。

「ただいま。つかれた。おやつ、なに。」

おねえちゃんのエレノちゃんが、かえってきた。しょうがく三ねんせいだ。

「エレ(ひっくり)ノちゃん。おかえ(ひっくり)り。しゃっくり、で(ひっくり)る。」

「そうなんだね。」

エレノちゃんも、しゃっくりがすきなはずなのに、さみしかった。  
よるごはんするとき、エレノちゃんが、

(ひゃっ)

しゃっくりをした。

(ひゃっ。ひゃっ。)

「エレ（ひっくり）ノちゃん、おなじ。」

「リースと（ひゃっ）、おな（ひゃっ）じ。」

おふろのとき、マミーが、

(しゃく。)

しゃっくりをした。

(しゃくっ。しゃくっ。)

「三に（ひっくり）ん、おそろいだね。」

と、わたしは、もっとうれしくなった。

(ひっくり)(ひゃっ)(しゃくっ)

「ねえ。リース（しゃくっ）のしゃっくり、まだと（しゃくっ）まらないの。こわい。」

と、マミーがいった。

おふろをでて、マミーとエレノちゃんは、スマホで、しゃっくりをとめるほうほうを、しらべた。わたしは、しているほうほうを、かみにかいて、やってみた。

『①おどろかす。②いきを、とめる。③みずを、のむ。』

ぜんぶやっても、とまらない。

『しゃっくり、とまれ』

と、おおきなじでかいた。じをみてたら、ぎやくから、よみたくな  
った。



画：あさくらまや

「れまと、りくっしや。れまと、りくっしや。れまと、りくっしや。わたしは、まほうのじゅもんのように、いった。」  
「とまった。ヤッター。」

わたしのしゃっくりは、とまった。マミーとエレノちゃんに、まほうのじゅもんを、おしえた。ふたりも、まほうのじゅもんをいうと、しゃっくりは、とまった。

しゃっくりは、きゆうにやってくるよ。まほうのじゅもん、わすれないでね。

---

---